

## 兵庫県透析医会の生い立ちとその活動

坂井 瑠実

兵庫県には、すでに年2回の研究会で28回を数える兵庫県腎臓研究会—発足当時は兵庫県透析研究会と称し、透析に関する演題を集めていたが、次第に各分野から巾広く腎臓のテーマが出るようになり、途中で、兵庫県腎臓研究会に改名—と、腎臓研究会では透析に関するテーマが少なくなり、透析にたずさわる人々のディスカッションと交流の場が、やはり必要として、57年に再度出来た兵庫県透析研究会がある。いずれも医師のみの会である。この他、兵庫県透析従事者研究会と称する、医師を除くパラメディカルの会があり、せんだって10周年を迎え、会員総数500余名が活発に活動している会がある。

56年に始まった度重なる診療報酬改定を機に、透析に携わっている多くの医師が、“このままで、質のよい透析医療の維持は可能であろうか”との漠然とした不安を持つようになっていた矢先、中央から都道府県透析医会連合会への入会の案内が届いた。そこで、58年夏、第3回兵庫県透析研究会の席上で、藤田嘉一会長より、他府県の透析医会の実情を調べるようにとの要請があり、兵庫県として、はじめて公式に、第28回人工透析研究会と同時に開催された都道府県透析医会連合会に出席した。透析医が透析医だけの利益を考えていたのでは、もはや評価されない。透析をこれ以上増さない運動、質を下げない運動を展開すべきで、従って腎臓移植やCAPDの普及に積極的に取り組む姿勢が必要である。今団結して、何をなすべきか!?なぜ今、法人化が必要なのか!?等、会長の熱い説明に共感

し、兵庫県もなるべく早くこの会に参加して、足並みをそろえて共に歩む意義を痛感した旨県透析研究会幹事会に報告された。当時兵庫県透析研究会のメンバーの何人かは、中央の透析医会（都道府県透析医会連合会）を、自分達の利益のみを追求する圧力団体と決めつけて敬遠するむきもあったが（事実、外からみていた透析医会のイメージは、なぜか、あまりよいものではなかった）58年9月1日、平沢透析医会連合会々長、鈴木満副会長のお2人に神戸までおいでいただき、透析医会設立の主旨、現況、活動方針、法人化の意義等、くわしく説明していただく機会を得て、多くの人々が納得出来たようだった。この日は両先生を囲んで、遅くまで、活発な、それでいてなごやかな意見交換が行われ、兵庫県透析医会誕生に向けての意義ある1日となった。

先に述べたように、兵庫県腎臓研究会、兵庫県透析研究会は、ともに医師のみの会であり、ほとんどその構成メンバーは同じである。ここに更に、兵庫県透析医会を作る事は、又同じメンバーの会を作ることになるので、中央の透析医会の主旨に賛同出来るのであれば県の透析研究会が中央の透析医会を支援したらよいとの意見も出たが、結局、設立の意義、会の性質、役割も違うので、兵庫県透析研究会が応援するとして、別組織の、兵庫県透析医会を作る事になった。即ち、兵庫県透析医会は、都道府県透析医会連合会に入会する事を原則に、実地医家の為の意義ある会—肩をはらずに、お互いに困って

いる事を持ち寄って考え、助け合い、情報交換をしながら、“適正透析を考える”をテーマに、和気あいあいと進められる会にしたいとして、原 信二氏（原泌尿器科病院）を会長とする案で、設立の準備がすすめられた。

58年11月17日、雨の中、発起人の呼びかけで集まった16名の医師で、兵庫県農業会館に於て、設立総会が行われた。この日決議された事項は、

1. この会を兵庫県透析医会と称す
1. 会員は兵庫で透析に従事する、もしくは透析に深くかかわる医師で、原則として、都道府県透析医会連合会に入会する
1. 会長は原 信二氏とする
1. 事務局は、神戸市東灘区甲南町5丁目6番7号住吉川病院内に置く
1. 幹事を数名置き（会長一任）実際の会の運営は幹事会がこれにあたる
1. 顧問を、兵庫県透析研究会、兵庫県腎臓研究会の会長である兵庫医大藤田嘉一教授にお願いする
1. 会費は年額、施設会費20,000円、個人会費5,000円とする。

であり、都道府県透析医会連合会のめざす法人設立の為の預託金（寄付金）に協力する等であった。

兵庫県透析医会としては、医会の必要性、法人設立の意義を理解、共感して入会の意志を示したら、即、寄付を集める作業にとりかからねばならず、非常に苦勞であった。それでも、28施設の協力を得てまず満足出来る預託金を集める事が出来、長らく中央で、最大の未組織県の1つであるといわれて来た兵庫県としては面目が保てた。

原会長の、各地域まんべんなく、いろんな人に協力してもらいたいとの意向で、幹事が決まり、その役割も決まって、ともかくも兵庫県透析医会としての実際の活動が始まった。

兵庫県透析医会幹事

- 学術担当 後藤 武男(高砂市民病院)  
堀口 幸夫(明和病院)  
大植 春樹(大植クリニック)
- 保険担当 内藤 秀宗(甲南病院)  
寺 柚一 徳(三田寺柚泌尿器科)  
宮本 孝(宮本クリニック)
- パラメディカル教育担当  
江尻 通磨(江尻病院)  
金津 和郎(県立尼崎病院)  
岩崎 卓夫(岩崎クリニック)  
永井 徹郎(永井クリニック)
- 庶務 広内 恒(県立日高病院)  
国吉 政一(国吉診療所)  
永井 博之(尼崎永仁会病院)  
松本 昭英(星優クリニック)  
坂井 瑠実(住吉川病院)
- 会 計 申 曾 沫(西北神HDクリニック)

以上16名

会員数も次第にふえ、61年8月末現在で、施設会員44、個人会員7と、ほぼ満足出来る数に達し、年2回の総会（時々、パラメディカルも交えて）を中心に活発に活動をはじめている。加えて、当初より、兵庫県腎臓移植推進協会、神戸大学泌尿器科が正規の施設会員であり、腎臓移植とのかかわりをスムーズにしているのも特徴といえる。

回を追って、今までの兵庫県透析医会の活動内容を紹介する。

#### 第1回総会

58年11月17日 於 兵庫県農業会館

出席者 16名

（設立総会を第1回総会とする。既述）

今まで兵庫県は、研究会等で学問的な交流は活発であったが、透析の実際にかかわる事柄の

意見交換がなされた事はなく、まわりがどのような透析をしているのか、ほとんど知らないのが現状であった。点数をあげようとしてでは決してなく、透析とはこうすべきものと信じて診療にあたり、結果常識的でないと悪評をかってしまう例もあるかもしれないと、原会長原案で、施設の実態調査に加えて、具体的な透析方法、使用薬剤種類、量、検査項目、頻度や、患者の移動の現況、紹介のし方、医会に対する要望等、アンケート形式で調査を行った。(35施設回収)

## 第2回総会

59年2月19日 於 兵庫県農業会館

出席者 17名

テーマ 適正透析を考える

### 1. 短時間透析の試み

話題提供 申 曾 沫(西北神HDクリニック)

内 藤 秀 宗(甲南病院)

### 2. CAPDの現況について

話題提供 坂 井 瑠 実(住吉川病院)

### 3. アンケートの集計結果と考察

原 信 二会長

適正透析を考えるとこのテーマで、透析の時間短縮はどこまで可能か、その為の透析方法の工夫等活発なディスカッションとなり、CAPDの現況では、腹膜炎の発生に話題が集中した。アンケートの結果は、多くの会員の興味あるところであり、本音でしゃべる事が出来好評であった。

## 第3回総会

59年9月9日 於 兵庫県農業会館

出席者 医師17名、パラメディカル39名

テーマ シャントをめぐる諸問題

——シャント作成とその管理——

パネラー 大前 博志(加西市民病院, 現原病院)

内 藤 秀 宗(甲南病院)

堀 口 幸 夫(明和病院)

司 会 西 岡 正 登(住吉川病院)

予想もしない大勢の参加で、急きょ会場作りに大わらわであった。多くのシャント作成の経験のあるパネラーからの、より具体的、実際的な話題、手術の方法や、内科医の限界、絶対さわってはいけない個所の指摘、日常のシャント管理等、失敗談も交えての経験に基づく話題提供に質問も多く出て、熱心な討議が行われ、いずこもシャントには苦勞しているのだなあと実感したとの声が多かった。以後、上記パネラーの方々のところに、兵庫県各地区の会員から、シャント作成、修復の依頼がさっとうして、忙しさに悲鳴をあげられ、透析医会として少々うらまれるはめになった。会員にとって非常にプラスだと、会としては喜んでいる。

## 第4回総会

60年2月17日 於 姫路キャッスルホテル

出席者 28名

テーマ

### 1. 糖尿病腎症(会員アンケート中心にして)

話題提供 後 藤 武 男(高砂市民病院)

### 2. 適正透析の現状と未来

話題提供 申 曾 沫(西北神HDクリニック)

・現時点に於る医療水準からみて適正透析とは？(私はこうやっている)

・将来どう変わって行くだろうか？(変わって欲しい点、変わって欲しくない点)

3. アンケート(保険診療上の問題点及び疑問点に対する会員の声)に基づき、保険診療の現状と限界について

話題提供 原 信 二会長

4. 透析医療の将来の展望(5年後,10年後の透析医療はどうなっているであろうか?)

5. 総 括

この回はより多くの会員の参加をと、江尻、国吉両幹事のお骨折りで会場を姫路に移して開催された。この回に先だち、増加著しい糖尿病腎不全の透析症例に目を向け、その病態、治療の現況についての実態を把握する為に、アンケート方式で調査を行った。(アンケート作成、集計 後藤武男幹事他) 30施設より回答がよせられ、現在透析中の128例、過去5年間の死亡112例について臨床的、統計的観察が試みられ、興味ある結果が得られた。この会の主題とすると同時に、兵庫県透析医会の名前で、第30回人工透析研究会に於て、“糖尿病腎不全の透析例についての統計的観察”との演題で発表し、日本透析療法学会雑誌第19巻9号に投稿した。

#### 第5回総会

60年9月8日 於 兵庫県立県民会館

出席者 27名

#### テーマ

##### 1. 透析患者の悪性腫瘍

(会員アンケート調査より)

話題提供 宮本 孝(宮本クリニック)

##### 2. レセプト検討

司 会 堀口幸夫(明和病院)

大植春樹(大植クリニック)

まとめ 原 信二会長

今年度のアンケート調査は、透析患者に多いといわれる悪性腫瘍に焦点をあて、ここ5年間の、1年以上透析を経過した悪性腫瘍症例を対象に内容が検討され、宮本幹事らにより集計、考察が加えられた(35施設より回収)。この会で発表すると同時に「兵庫県に於ける慢性透析患者の悪性腫瘍」と題してまとめ各会員施設に配布した。

レセプト検討は、週3回、合併症の少ない安定した通院透析患者の生のレセプトを各施設10枚程度持ち寄り、施設名を伏せて、出席者で感

想をのべ合う形式でディスカッションが行われた。他の施設のレセプトをみるのもめずらしく、書き方の工夫も含めて非常に参考になり、今回は是非、合併症の多い患者のレセプト検討を行いたいとの声も多く、好評であった。

#### 第6回総会

61年2月16日 於 兵庫県農業会館

出席者 医師34名、パラメディカル80名

テーマ 長期透析の合併症について

##### 1. パネルディスカッション

—あのすさまじい時代、種々の合併症を乗り越え今、こんなに元気にしています—

司 会 金津和郎(県立尼崎病院)

#### パネラー

伊藤清行 透析歴18年(伊藤病院)

平尾春二 17年(腎友会病院)

山下靖夫 16年(西北神HD

クリニック)

田村修一 16年(日高病院)

内川政治 16年(岩崎クリニック)

福留保子 16年(宮本クリニック)

大田義雄 15年(尼崎永仁会病院)

##### 2. 10年以上長期透析患者のアンケート調査より

話題提供 永井博之(尼崎永仁会病院)

##### 3. 総括 藤田嘉一透析医会顧問

かなり大きな会場を用意したつもりであったが、満席で、盛会であった。

15年以上透析を行って来た患者さん7名をおよびして、体験談、合併症、現在の悩み、将来の希望等を話してもらった。一口に15年と言っても、あの初期のすさまじい時代の経験者であり、いずれも感銘深い話ばかりで、透析にたずさわるスタッフにとって、二度とあともどりをしてはいけない時代の貴重な

体験談は、有意義で、パネラーの皆さんが非常に元気な事も合せて、心に残るパネルディスカッションとなった。

この会に先だって行われた10年以上の透析者のアンケートでは、32施設より233名の長期透析者の回答が得られ、永井博之幹事より集計と考察が加えられた。この会での発表に加えて第31回日本透析療法学会で発表、透析療法学会誌に投稿予定である。

井上聖士講師（兵庫医大）の、長期透析者の合併症としての腎性骨症、アルミニウム骨症、手根管症候群の説明もわかりやすく好評であった。

## 第7回総会

61年10月26日(予定) 於 兵庫県農業会館  
特別講演 長期透析者に必要な検査について  
藤田嘉一兵庫医大教授  
(兵庫県透析医会顧問)

### パネルディスカッション

#### 検査をめぐる諸問題

—こんな検査でこんな事がわかる—

- 尿検査 原 信二(原泌尿器科病院)
- アルミニウム 宮本 孝(宮本クリニック)
- $\beta_2$ MG 宮崎哲夫(甲南病院)
- フェリチン 申 曾沫  
(西北神HDクリニック)
- 糖尿病コントロール  
後藤武男(高砂市民病院)
- ヘパリンコントロール  
松尾武文(県立淡路病院)

以上の要領で第7回総会を予定している。

兵庫県透析医会は、追いたてられるようになって3年、まだまだ十分な活動は出来ていないが、実際に臨床の場に臨んでいる透析医の、日常の臨床に役立つ勉強の場、情報交換の場、自浄作用を持った助け合いの場、パラメディカル

の教育の場、将来とも、より質の高い透析を目ざす場、そして何よりもお互いの理解と親睦のはかれる場（相手を知る、親しくなるということはずばらしい事だ）として、末長く続けて行きたいと思っているし、会員が、この透析医会に所属している事を誇りに思える会に育って行きたいと思っている。

文責 兵庫県透析医会事務局  
坂井瑠実